

なすしおばら げんきびと 元気人

あなたの身近な
元気人を募集中



>>>

方京自治会会長

No. 31

三本木 忠二 さん

平成18年～21年の4年間自治公民館長を務めた後、22年から現在に至るまで自治会長を務めている。その他、ボランティア活動にも献身的に参加しており、県や市の青少年指導員や保護司なども兼任している。

Pick up



↑自主防災会の様子。月に1回程度勉強会を開いている。個人でできる防災に加え、実際に体験をしながら地域での防災の必要性と方法を相談し合っている。

→郷土史『方京の今昔』

表紙は方京の町並みを写し、空の青色と文字のオレンジ色で明るく未来に向かっていくイメージで作成した。



優しい笑顔と人柄の三本木さん。
人とのつながりを大切に日々さまざまな活動をしている。

大切なのは人とのつながり——
地域の絆を強みにしていきたい

生

まれ育った地域のことを知って
いる人はどれだけいるだろう。
地域の歩んだ軌跡、変わっていくまち
の様子…。3年の月日をかけ、地域の
歴史を後世に語り継ぐ郷土史作りに携
わった、三本木忠二さんに話を伺った。

地域の伝統行事がなくなってしま
う。東日本大震災の影響により、地域
で毎年行われていた「どんど焼き」の開
催が2年間見送られた。このことがき
っかけで思い立ったのが郷土史『方京の今
昔』の制作だった。「地域の歴史を知る
人が少なくなっている今、後世に語り
継いでいけるものを残したい」と思いま

した」と当時を振り返る。

平成24年10月、同じ地域に住む歴史
に詳しい磯靖雄さん、地域の歴史に強
い関心を持った谷勝利さんと3人での
作業が始まった。市役所や県庁、図書
館などに何度も足を運び、少しずつ資
料を集めた。うまく集まらない時も「地
域に貢献したい」とその思いで励み続
けた。話し合いを重ねながら集めた資料
を編集し、27年12月に完成を迎えた。
自治会加入者に全戸配布し、その後も
新たに加わった世帯に配っている。「方
京地区は新しい住民がどんどん増えて
いる地域。新たな住民と古くから住ん
でいる住民の両方が、郷土史をともし
て地域を知り愛着を持ち、交流を深め
るきっかけにできたら」と話す。

三本木さんの地域への思いの根底に
は、11年間務めている保護司の経験か
ら学んだ「人は1人では生きていけな
い。周りの人と助け合うことで生きて
いける」との考えがある。地域での自
主防災会もその観点による地域づくり
の1つ。「各地でさまざまな災害が起
こっているなか、地域での防災意識を
高め、つながりを強くすることが重要
だと考えています」と話す。「方京地区
に住んでよかったと、5つ星をつけて
もらえるような地域にしていきたいで
す」と語る三本木さんの瞳には方京
地区の明るい未来が映っている。